

群 教 セ	G10 - 01
	平25.249集
	小・道徳

いじめの未然防止に向けた道徳指導の工夫

— 登場人物の行為・心情への気付きを促進する 授業展開と気付きシートの活用を通して —

長期研修員 佐口 昌

キーワード 【いじめ 未然防止 道徳 気付く力 道徳的实践意欲や態度】

I 主題設定の理由

いじめの問題は、最悪の場合、命の危険にかかわる深刻な問題に発展することが想定され、問題の速やかな解決が不可欠な喫緊の課題である。事態の重篤性を受け、「いじめ防止対策推進法」（2013）が施行され、この法律の基本理念を基に「いじめの防止等のための基本的な方針」（文科省2013）が通知された。この方針では、「いじめの防止、いじめの早期発見及びいじめへの対処のための対策を効果的に推進すること」が示された。いじめは人権侵害にあたり、すべての児童生徒の人権を守るために、いじめのない学校づくりが求められている。群馬県でも、「平成25年度いじめ問題対策推進事業」の一貫として、児童生徒による自主的ないじめ防止活動の取組を推進している。

国立教育政策研究所が実施した「いじめ追跡調査2010-2012」から、いじめが起きる要因は心理的ストレスや集団内の異質な者への嫌悪、ねたみや嫉妬感情など、「心の問題」が大きい。児童生徒自身が、不安や葛藤、劣等感、欲求不満などの心理的に不安定な状態に陥ることで他の児童生徒に向かって攻撃的な態度を取らせ、いじめにつながることを指摘できる。その他にも児童生徒のコミュニケーション不足がいじめの起きる要因として挙げられる。このような児童生徒の実態は、学校生活の中においてどの学校にも見られる。また、いじている意識をもっていなくても他の児童に攻撃的な態度を向けてしまう児童生徒がいる。

所属校の毎月のいじめアンケートの結果からは、深刻ないじめは報告されていない。しかし、学校全体としては、生活の中で起きる悪口や冷やかしが原因で児童の間でトラブルが発生する実態が見られた。また、高学年では、周囲に対する威圧的な言動もしばしば見られ、そこからトラブルに発展してしまったケースもあった。そのような集団生活の中の悪口や冷やかし等が原因となるトラブルは、上記に示したようにどの学校にも共通する課題である。よって、いじめにつながるような言葉や行為に気付き対処していこうとする意欲や態度を身に付けることがいじめの未然防止に向かう本校の課題ととらえる。以上のような児童の実態を踏まえ、「いじめをしない、いじめを許さない、いじめを見逃さない児童」を育てるために、いじめにつながる言葉や行為に気付き、対処しようとする意欲や態度を身に付けさせることが、速やかに取り組むべき課題と考えた。

そこで、本研究ではいじめは「心の問題」が大きいことを踏まえ、心の成長を扱う道徳指導の工夫を通して、「いじめをしない、いじめを許さない、いじめを見逃さない児童」を育てたいと考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

いじめの未然防止に向けた道徳指導において、登場人物の行為・心情への気付きを促進する授業展開と気付きシートの活用を通して、いじめにつながる言葉や行為に気付き、対処していこうとする道徳的实践意欲や態度を身に付けさせる。

III 研究の見通し

1 気付きを促進する授業展開の工夫

いじめの未然防止に向けた道徳の授業において、授業展開を工夫することによって、いじめにつながる言葉や行為についての気付きを促進することができるであろう。

2 道徳気付きシートの活用

いじめの未然防止に向けた道徳の授業において、「道徳気付きシート」を活用することによって、自己の感じ方や考え方の変化に気付くことができるであろう。

3 生活気付きシートの活用

学校生活において、「生活気付きシート」を活用することによって、いじめの未然防止に必要な友達とのかかわりに対する考えを深めることができるであろう。

IV 研究内容の概要

本研究は、道徳の授業実践（3時間）と「生活気付きシート」への取組（4週間）から、目指す児童像に迫った。道徳の授業では、気付きを促進する授業展開の活性化のために「道徳気付きシート」を取り入れた。「道徳気付きシート」には児童自身の考えとその理由を記述させた。そして少人数の交流活動で多様な考えを共有した後に再び自分の考えを整理させ気付きを促した。

道徳の授業実践の内容は以下の通りである。

＜道徳 第1時＞は、「きみならどうするー子どもたちとの対話ー」（内容項目：寛容・謙虚）という資料を用いた。アメリカの子どもたちと日本の子どもたちの考え方の違いを通して、自分と異なる相手の気持ちや考えを想像し、相手の立場に立って考えようとする力を育ていじめの未然防止につながる授業実践である。いじめの被害者は自分の思いや考えを他者になかなか伝えられない傾向があるので、受容的コミュニケーションを利用した「伝える活動」を取り入れて児童同士の考えの交流を行った。

＜道徳 第2時＞は、「鏡の中の顔」（内容項目：信頼・友情）という資料を用いた。トラブルが原因で教室を飛び出してしまうクラスメイトに、その場では何もできなかったが、家に帰ってから悩む「わたし」に視点をあてた授業実践である。加害者はいじめによる相手の痛みや悩みが分からない傾向があるので共感する力を育てる支援が大切である。また、共感する力は加害者だけでなく、どの児童にも身に付けさせる必要がある。そこで、本時では多様な登場人物の中から傍観者の「わたし」に焦点をあてた。「わたし」の気持ちや考えを想像し、どのように対処すれば友達が教室を飛び出さなくてすんだのかを考えることを通していじめの未然防止につながる考えを導いた。

＜道徳 第3時＞も、「鏡の中の顔」（内容項目：公正・公平）という資料を用いた。本時では、加害者、観衆、傍観者（「わたし」を除く）に視点をあてた授業実践である。いじめの未然防止では、仲裁者の存在が必要不可欠であり、仲裁者を育てるための支援を発問等を通して行った。

「生活気付きシート」では、児童が学校生活の様子をシートの項目に沿って記述する。4週間の実践後、「もう一度、同じ場面になったら自己評価をAにするためにどうするか。」という視点で振り返りを行った。自分の言葉や行為をもう一度振り返ることを通してよりよい人間関係形成の手だてとした。

V 研究のまとめ

1 成果

- 授業展開を工夫することで、児童は他者の多様な考えを共有できた。そして、自分の考えに自信をもったり、友達の考えとの違いを参考にしたりすることで自分の考えを深めた。
- 「道徳気付きシート」では、自分の考えの立場の違いやその理由を明確にすることで、児童相互の多様な考えの共有を効果的に行うことにつながった。
- 「生活気付きシート」では、友達とのかかわりを自己評価したことで自分の言葉や行為を振り返り、よりよい関係をつくるための見通しや意欲をもたせることができた。

2 課題

- 気付きを促進する授業展開に適した道徳資料の選定と作成である。他の副読本や自作資料に活用するための資料選定の仕方の基準が必要である。

VI 研究の内容

1 いじめの未然防止に向けた道徳指導について

いじめの未然防止に必要なことは、いじめの問題を児童自身が自分のこととして考え、いじめの問題に正面から向き合い、自分にできることは何かを積極的に考える姿にとらえる。よって、道徳指導の工夫を通して、「いじめをしない、いじめを許さない、いじめを見逃さない児童」を育てるために、いじめにつながる言葉や行為に気付き対処しようとする気持ちや態度を身に付けさせることが重要と考える。ここで留意することは、いじめはいけないという認識を多くの児童はもっている。しかし、「相手がどんな気持ちになった時にいじめになるのか」、「どんなことをした時にいじめと判断されるのか」、「どんなことをされた時にいじめと判断するのか」を明確にとらえ切れていない児童がいる。そのような児童も含め、すべての児童にいじめの未然防止に向けた道徳指導を行い、いじめの未然防止に取り組める児童を育てる。本研究において目指す児童像に迫ることは、群馬県教育振興基本計画(2009)「豊かな心」や小学校学習指導要領解説道徳編「生きる力」の育成にもつながると考える。

本研究のねらいに迫るためには、いじめの構造を構築させないような指導・支援を児童に行う必要がある。そこで、いじめの構造を作らせないために必要な要素を焦点化して道徳指導にあたる。指導のポイント作成には、いじめ教室の病い(森田1994)、入門いじめ対策(相馬他2012)、生徒指導提要(文科省2010)を参考に、いじめの四層構造の立場の違いの特徴を図に示した。(図1)四層とは、いじめを受ける、いじめをする、観衆、傍観者(仲裁者を含む)の4つの集団である。

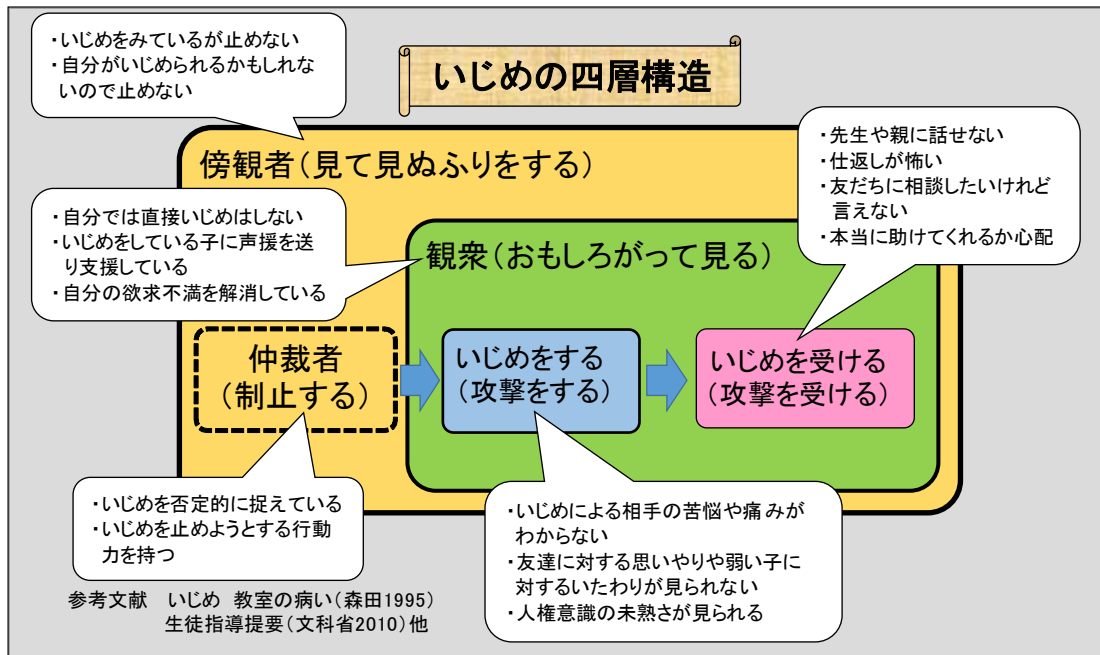


図1 いじめの四層構造の各立場の特徴例

以下に示す(1)～(3)の3点がいじめの未然防止に向けた指導のポイントである。

(1) 被害者を守るための受容的コミュニケーションの利用

集団生活の中では、円滑な人間関係が構築されていなければならない。そのためには、誰もが自分の気持ちや考えを伝えられる環境を十分に整えることで安心して話せたり、周りに認めてもらえたりする仲間関係づくりが大切である。いじめを受ける側は、「友達に相談したいけれど言えない」や「話をしても無視されたり、反発を受けるために話したくない」等の特徴が見られるからである。そこで、児童全員が誰に対しても同じような、分け隔てのない態度で接することや自分の考えを確かに受け取ってもらえたり、相手の考えを確実に受け止めてあげたりすることが重要な指導のポイントとなる。

(2) 加害者を生まないための共感性の向上

加害者になりやすい児童は、心理的ストレス、集団内の異質な者への嫌悪、ねたみや嫉妬感情など様々な要因がいじめ加害に向かわせると考えられている。悪ふざけや自分勝手な行動、暴力や命

令は相手の気持ちや考えを理解しようとしないうる行動であり、他者への気付きを高めることで相手の気持ちや痛みを考えたり、理解しようとする「共感性」を育てることが大切である。また、いじめは悪いことと理解していてもいじめ加害になっている児童も存在する。いじめている意識が低いためである。しかし、そのような児童は、相手の認知や感情の理解については優れているという指摘がある。どのようなことをしたら嫌がるかなど、相手の感情を予測することについて優れているが被害者の反応に対して悲しみ・恐怖等の感情が生じにくい。つまり、相手が悲しんでいても自分は悲しくならず、相手が痛みを感じていても自分は痛みを感じないというような「共感性の低さ」が特徴としてあげられる。故に、いじめを受ける側に対して、他のすべての立場は、「いじめを受ける相手に対する共感性を高めること」が重要な指導のポイントとなる。

(3) 仲裁者を育てるための視点

いじめの四層構造の傍観者に含まれる仲裁者は、いじめを否定的にとらえ、いじめの解決に向かう働きかけが可能な集団である。また、いじめを止める行動を起こすことでいじめに対する抑止力を生じさせ、解決の糸口となる存在である。しかし、その役割を果たすためには傍観者の考え方や行為の変容が必要である。

右のグラフは、平成17年度教育改革国際シンポジウム報告書（国立教育政策研究所）の中の、「傍観者」の出現率の学年別推移（図2）と「仲裁者」の出現率の学年別推移（図3）を2カ国間で国際比較したグラフである。イギリスは、児童生徒の自我形成の時期に「傍観者」は減少し始め、「仲裁者」は増加の傾向に転じ始めていることが分かる。しかし、日本では、児童生徒の自我の形成期に「傍観者」は増加傾向が変わらず、「仲裁者」も減少傾向のままである。「仲裁者」の増加はいじめの未然防止に必要不可欠であり、この調査から、自我形成期に入る前に児童への意識改革の具体的な手だてが重要な指導のポイントとなる。ここで留意すべき点は、傍観者の中においても様々な意識の違いをもち合わせている事実である。具体的には、以下の傍観者層が存在する。

「自己防衛的傍観者層（関わり合いたくない、下手に関わると次は自分がいじめられる。被害者を助ける気持ちはない集団）」

「可変的傍観者層（いじめを悪いと思っているが積極的に助けない。どうしていいかわからない。積極的に助けない。『何もしない』ことによっていじめを許容して、いじめの継続に荷担している集団）」（栗原2013）故に、傍観者の行為や心情の違いを意識して仲裁者を育てる支援・指導の工夫も重要となる。

2 生徒指導の視点を踏まえた気付きを促進する授業展開の工夫について（次頁図4）

いじめは生徒指導との関連が深いことを踏まえ、生徒指導の3機能である「自己決定」、「自己存在感」、「共感的人間関係」を意識した指導の工夫を行う。「生徒指導は個々の児童生徒の自己指導能力の育成を目指すもの。」（生徒指導提要 文科省2010）から、教育活動のあらゆる場

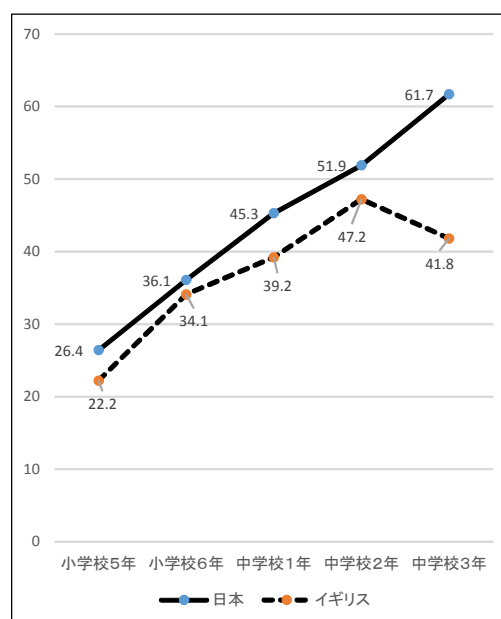


図2 「傍観者」の出現率学年別推移

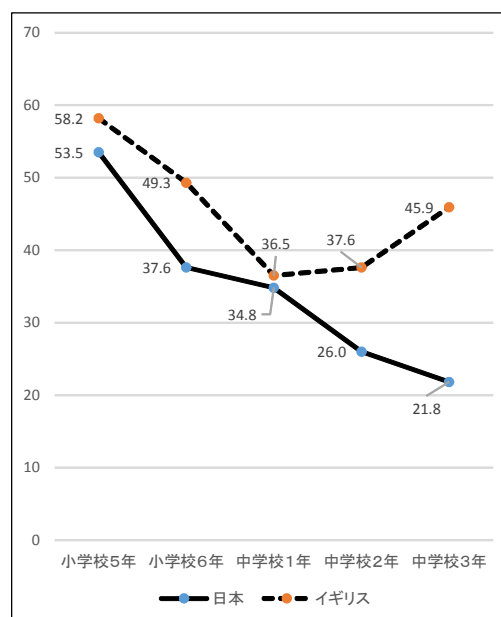


図3 「仲裁者」の出現率学年別推移

面において行う機能をもっているのです、この機能を活用することがいじめに対する自己指導能力を向上させるために大切になるととらえる。

授業展開の中に以下の3点を示す。

(1) 自己決定の場を与える

自己決定とは、相手や状況に応じて、どんな行動をとるとよいのかを自分で考え、判断し、実行することである。自己決定の力をつけるには、できるだけ多くの自己決定の場を設定していくことが必要であり、道徳の授業で積極的に自己決定が行えるように導いていく。資料の登場人物に対して自分の考えの立場をはっきりさせることで自己決定を意識させ、主体的に判断し行動する力を身に付けさせる。

(2) 自己存在感を与える

自己存在感を与えるためには、一人一人がかけがえない存在として他から認められ、個性を発揮できる場所が必要である。そのために、指導者は児童の発言を認めたり、児童の考えのよさを伝えることで一人一人の発言や行動を価値付けていき自己存在感を高めていくことが必要である。そこで、児童全員が活躍できる場の設定、児童の個性を活かせる活動場面の設定を授業展開の中に取り入れる。

(3) 共感的人間関係を育てる

児童同士は「共に考え、共に学ぶ」という視点から、相手を受け入れ、相手を尊重し、互いに感じ合える温かい人間関係を築くことが大切である。児童は、温かい人間関係の中で正しい答えなのか自信がなくても自分の考えを堂々と発言できる雰囲気が必要である。つまり、間違っても笑ったりするのはなく、相手の考えを共感的・受容的な態度で「聞き合う」姿勢が大切である。そこで、友達の良い考えのよさに目を向けさせる場を設定し、「聞き合う」活動を通して共感的な人間関係を築かせる。

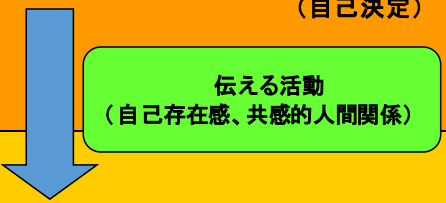
指導過程	「はばたく群馬の指導プラン」より道徳指導の基本的な流れ	気付きを促進する授業展開
導入	○ 本時の主題についての関心を高め、価値への方向付けを行う。	
展開	<p>○ 中心的な資料によって、ねらいとする道徳的価値の追求・把握を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>授業の充実のためのコツやアイデアより</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童生徒の心を動かし、多様な考えを引き出すために(発問の工夫) ○ 児童生徒相互が考えを伝え合い、学び合い深め合うために(話し合いの工夫) ○ 考えを書く活動を充実させるために(書く活動の工夫) </div> <p>○ ねらいとする道徳的価値に照らして自分自身を振り返る。</p>	<p>展開①自己への気付きを高める。(自己決定)</p> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <p>展開②他者からの気付きを通して、自己への気付きを深める。(自己決定)</p> <p>展開③他者への気付きを高める。(共感的人間関係)</p>
終末	○ ねらいとする道徳的価値に対する思いや考えをまとめる。	

図4 気付きを促進する授業展開

3 登場人物の行為・心情への気付きを促進する授業展開の工夫について(図4)

児童の気付きを促進するための授業展開工夫は、「はばたく群馬の指導プラン」の道徳指導の基本を参考にした上で、その中に組み込む。具体的な展開の内容は以下に示す。

(1) 展開①自己への気付きを高める指導(自己決定)

児童自身が課題に対して、自分の考えを自己決定し自己理解を深める。登場する人物の行為・心

情を評価して、自分はなぜそのように考えたのか、自分の考えの理由を示すことを通して自分の考えを明確にもたせる。

(2) 展開②他者からの気づきを通して、自己への気づきを深める指導（自己決定）

「伝える活動」で児童自身が、友達と交流して課題に対する多様な考えを共有する。その後、再度登場する人物の行為・心情を評価して、その理由を示すことを通して自分の考えを深めさせる。

(3) 展開③他者への気づきを高める指導（共感的人間関係）

児童が資料に登場する人の行為の理由や心情を想像したり、資料に登場する人の思いや考えを大切にすることを通していじめにつながる言葉や行為に対処していこうとする自覚を高めさせる。

(4) 伝える活動（自己存在感、共感的人間関係）

少人数グループの交流活動の中で自分の考えを伝え合わせ、自己の考えを深める活動。ワールド・カフェとブレン・ライティングを参考にした交流活動である。学習者全員が自分の考えを発表できる場を設定することで、自己存在感をもたせる。また、傾聴や受容的な態度を心がける受容的コミュニケーションを利用したルール（図5）を設定することで、発表者が安心して発表できる環境づくりに努め、共感的人間関係づくりの基盤とする。更に、一つの班の中だけの発表ではなく、他の班の発表を聞く活動を広く行うことを通して、児童により多くの考えに触れさせ自己の考えを深めさせる。「伝える活動」の流れを以下に示す。

〔伝える活動の流れ〕

- ① 生活班の中で一人ずつ順番に「道徳気づきシートの1」の記述を発表する。
 - ・意見や批判、質問は控え、友達の発表や代表発表者の発表を静かに真剣に聞く態度に努める。
- ② 班の代表発表者を決める。
 - ・教師が役割の指示を出す。
 - ・代表発表者は同じ人がならないように指示を出し発表する機会を用意する。
- ③ 代表発表者は同じ班の人の「道徳気づきシート」を集める。
- ④ 代表発表者はその場に残り、班の他の児童は場所の移動を行う。
 - ・教師が移動場所を指示する。
- ⑤ 代表発表者は、移動してきた人たちに、自分の班の人の「道徳気づきシートの1」の考えを伝える。
 - ・意見や批判、質問は控え、友達の発表や代表発表者の発表を静かに真剣に聞くように声がけを行う。
 - ・発表している時はうなずいたり相槌をうったりして代表発表者を励ますよう教師と児童は努める
 - ・移動する時は静かに素早く動くことを心がけるよう声がけを行う。
- ⑥ 教師の指示で順次④⑤を繰り返す。

○発表を聞く時の態度
 (友達の考えを時間内にたくさん聞くことができるようにするため)

- ・うなずきや相づちはO.K.
- ・集中して耳をかたむける。
- ・誰の発表でも真剣に聞いてあげること。
- ・うまく発表できない人への応援はO.K.
- ・意見や質問の時間はなし。
- ・批判はしない。

図5 発表を聞く時の態度

「伝える活動」の児童の動きの具体例として、3つの班で実施する場合のモデルを示す。(図6)

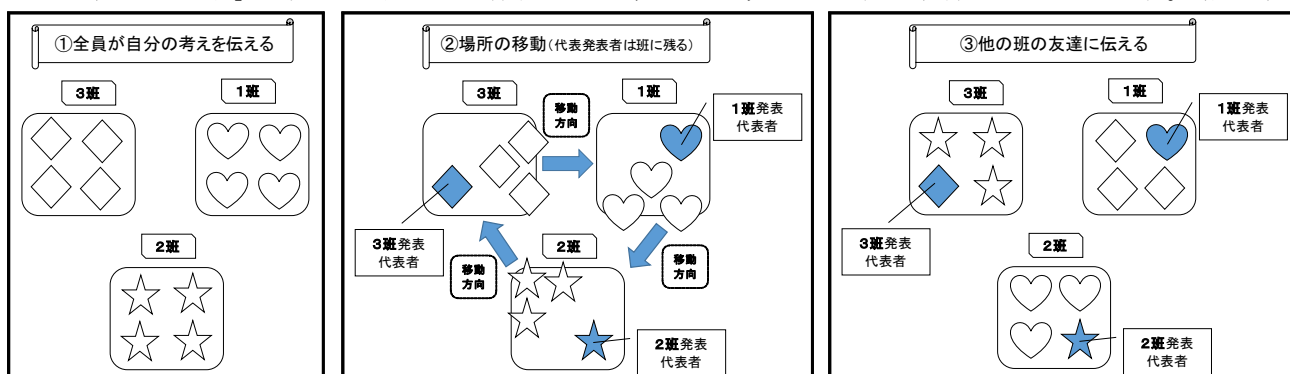


図6 伝える活動の動き(3つの班をモデルとして)

4 気付く力を促進する手だてとして、気付きシートの活用

気付きシートは道徳の授業で活用する「道徳気付きシート」と学校生活における自己の振り返りに活用する「生活気付きシート」の2種類を用いる。「道徳気付きシート」は道徳の授業の登場人物を通して、客観的な視点からの気づきを高め、気づきを促進する授業展開を補助する役割を担う。「生活気付きシート」は、学校生活における自己の生活体験に基づく主観的な観点からの気づきを促進するために活用する。児童自身の行為や心情への気づきを促進することを通して道徳的実践意欲や態度を高める。

(1) 「道徳気付きシート」について (図7)

「道徳気付きシート」とは、自己評価欄を置いた形式のワークシートである。このシートの活用は、書く活動を充実させることや、「伝える活動」を活性化させるために活用する。道徳の資料に登場する人物の行為や心情に共感する疑似体験的な活動を通して、児童の考えの立場とその理由を明確にさせる。

本シートは「コンパシート〔羅針盤〕子どもを対象とする人権教育総合マニュアル第4章2 あなたはどこに立ちますか?」の考えを参考に作成した。

次に、自己評価欄を取り入れる目的は、以下の通りとする。

- ① 児童に自己決定を促すことで児童自身の考えの立場を明確に意識させるため。
- ② 自己評価欄を複数設定することで児童の考えの変容を読み取り易くするため。
- ③ 他者との相違を分かりやすく示すため。
- ④ 授業の導入やまとめに活用するため。

(2) 「生活気付きシート」について (図8)

学校生活の生活体験の中から自分の行為や心情を記録し、自分の対応を評価することで自分の行動を振り返る。特に、自分がどのような気持ちになったのかを言語化して表現することで自分の考えに気付く活動につなげる。

「生活気付きシート」の振り返りでは、「もう一度、同じ場面になったら友達とのかかわりをよくするためにどうするか」と言う視点で自己の考えを深めさせていく。自分はどうしていくことが望ましいかを自己決定させていくことで、いじめの未然防止に向かう道徳的実践意欲や態度を自覚させる。

留意点として、「生活気付きシート」は児童の個人情報として扱うことで、児童が安心して記入できる環境を整える。

道徳気付きシートの例 資料名【〇〇〇〇】

1 【自己への気づきを高める】
お話を読んで、あなたは「〇〇〇〇」をどう思いますか。あてはまる所に○印を書きましょう。そして、その下に理由を書きましょう。

よいと思う。 少しよいと思う。 少しよくないと思う。 よくないと思う。

<自分が○印をつけた理由を明確に記述する欄>

2 【他者からの気づきを通して、自己への気づきを深める】
友だちの考えを聞いた後、あなたは「〇〇〇〇」をどう思いましたか。あてはまる所に○印を書きましょう。そして、その下に理由を書きましょう。

よいと思う。 少しよいと思う。 少しよくないと思う。 よくないと思う。

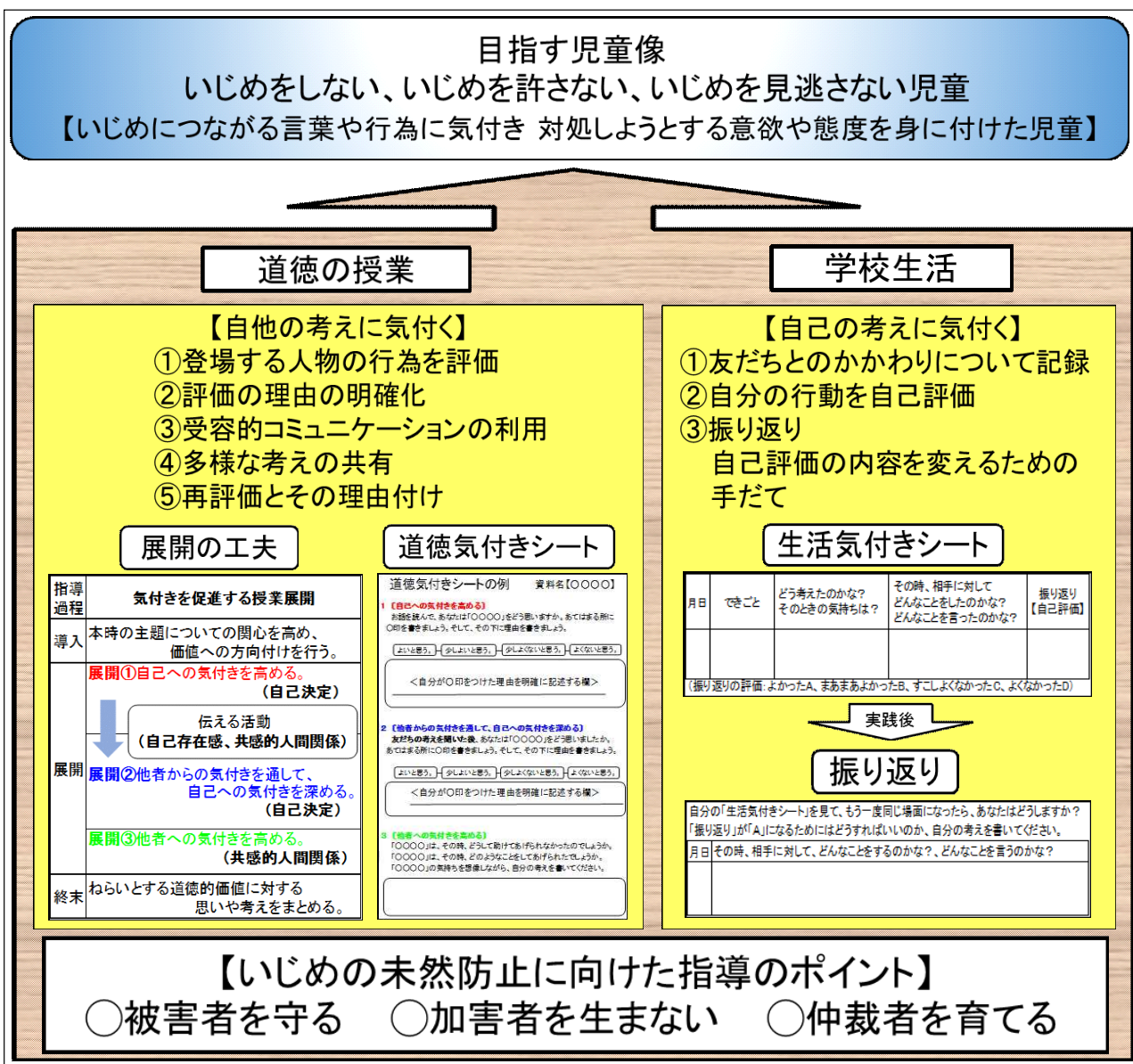
<自分が○印をつけた理由を明確に記述する欄>

3 【他者への気づきを高める】
「〇〇〇〇」は、その時、どうして助けてあげられなかったのでしょうか。「〇〇〇〇」は、その時、どのようなことをしてあげられたでしょうか。「〇〇〇〇」の気持ちを想像しながら、自分の考えを書いてください。

図7 道徳気付きシートの形式

生活気付きシートの記入項目				
月日	できごと	どう考えたのかな? そのときの気持ちは?	その時、相手に対して どんなことをしたのかな? どんなことを言ったのかな?	振り返り 【自己評価】
(振り返りの評価:よかったA、まあまあよかったB、すこしよくなかったC、よくなかったD)				
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 0 auto;">実践後</div>				
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 0 auto;">生活気付きシートの振り返り</div>				
自分の「生活気付きシート」を見て、もう一度同じ場面になったら、あなたはどうしますか? 「振り返り」が「A」になるためにはどうすればいいのか、自分の考えを書いてください。				
月日	その時、相手に対して、どんなことをするのか?、どんなことを言うのかな?			

図8 生活気付きシートの内容



Ⅶ 実践の計画と方法

1 実態調査

対象	小学校6年(76名)	期間	9月上旬
時間	短学活(帰りの会)	指導者	学級担任、長期研修員 佐口 昌
調査内容	Q-U、いじめに関するアンケート、学校生活アンケート 参考資料として、いじめについて考えるぐんまの小・中・高23万人アンケート		

2 実践の概要

対象	小学校6年(76名)	期間	平成25年10月1日～11月1日
時間	3学級において 道徳3時間 短学活	指導者	長期研修員、協力学年の学級担任

3 検証計画

見通し	検証の観点	検証の方法
1 気付きを促進	いじめの未然防止に向けた道徳の授業において授	授業観察

する授業展開の工夫	業展開を工夫したことで、いじめにつながる言葉や行為についての気付きを促進することができたか。	学校生活アンケート 道徳授業アンケート 他教師からの聞き取り
2 道徳気付きシートの活用	いじめの未然防止に向けた道徳の授業において、「道徳気付きシート」を活用したことで、自己の感じ方や考え方の変化に気付くことができたか。	
3 生活気付きシートの活用	学校生活において、「生活気付きシート」を活用したことで、いじめの未然防止に必要な友達とのかかわりに対する考えを深めることができたか。	

4 指導計画

(1) 授業実践(全9時間)

授業実践は、1時間の道徳に対して3クラスずつ授業実践を行う。最初に研修員が授業を実践し、その後、他の2クラスで同様の授業を行う。

<道徳 第1時>

主題・資料名	ねらい・指導のポイント
○ 広い心 内容項目2-(4) 寛容・謙虚 ○ きみならどうする ー子どもたちとの対話ー 出典:きみがいちばんひかるとき(光村図書)	○ 自分と異なる相手の気持ちや考えを想像し、相手の立場に立って考えようとする意欲や態度を養う。 ○ 「気付く力を高める指導」を通して、受容的コミュニケーション力を育てる。
授業実践① 10月7日(月) 第4校時	6年A組 指導者 研修員
授業実践② 10月11日(金) 第3校時	6年B組 指導者 学級担任
授業実践③ 10月15日(火) 第3校時	6年C組 指導者 学級担任

<道徳 第2時>

主題・資料名	ねらい・指導のポイント
○ 互いに助け合って 内容項目2-(3) 信頼、友情 ○ 鏡の中の顔① 出典:きみがいちばんひかるとき(光村図書)	○ 友達の気持ちや考えを想像し、仲良く助け合おうとする道徳的判断力を養う。 ○ 「気付く力を高める指導」を通して、共感性を高める。
授業実践④ 10月15日(火) 第6校時	6年A組 指導者 研修員
授業実践⑤ 10月18日(金) 第3校時	6年B組 指導者 学級担任
授業実践⑥ 10月21日(月) 第3校時	6年C組 指導者 学級担任

<道徳 第3時>

主題・資料名	ねらい・指導のポイント
○ 公正公平な態度 内容項目4-(2) 公正公平 ○ 鏡の中の顔② 出典:きみがいちばんひかるとき(光村図書)	○ だれに対しても公正公平に接していこうとする道徳的実践意欲や態度を養う。 ○ 「気付く力を高める指導」を通して、仲裁者を育てる。
授業実践⑦ 10月21日(月) 第5校時	6年A組 指導者 研修員
授業実践⑧ 10月25日(金) 第3校時	6年B組 指導者 学級担任
授業実践⑨ 10月29日(火) 第3校時	6年C組 指導者 学級担任

(2) 「生活気付きシート」の実践

10月1日(火)	学年集会	「生活気付きシート」の説明。
10月1日(火) ～10月30日(水)	学校生活	○ 休み時間や家庭学習の時間等において児童が記述をする ○ 一週間ごとに回収し、記述内容に対してコメントを記入する。

Ⅷ 実践の結果と考察

いじめの未然防止に向けた指導のポイントを意識した実践を通して、いじめにつながる行為や心情への児童の気付きを促進することは、円滑な人間関係の形成にもつながる大切な能力を育むことができる。

1 気付きを促進する授業展開と道徳気付きシートの結果と考察

(1) <道徳 第1時>の結果と考察

「道徳気付きシート」への記入では、どの児童も真剣に自分の考えの立場を決め、その理由を記述していた。また、「伝える活動」の後も他者の考えを通して、自分の考えが変わった理由や変わらなかった理由を明確に記述できていた。「伝える活動」では、6年生は手順の理解が早く、実際の活動ではトラブルもなく進行することができた。また、初めに提示された「伝える活動」の決まりを守り協力して活動できた。(図9)



班で一人ずつ、自分の考えを伝えている場面



代表発表者が、自分の班の人の考えを移動してきた他の班の友達に伝えている場面

図9 伝える活動の様子

表1 児童の考えの立場の変容

展開①、資料に登場する「アメリカの子どもたちの考え」に対する児童の考えの立場の変容を、表1に示す。交流の後、「よい」と考える方向に評価が変わった児童は14人、「よくない」と考える方向に評価が変わった児童は3人であった。宿題をもってこられなかったことではなく、きちんとしたが、見つからなくなってしまうことをしっかり話すことの大切さに児童が共感し、自己の考えの変容を行ったと考える。その反対に、宿題をもってこられなかったことを説明しても、疑われるのではないかと心配する児童もいた。

展開②では、

- 友達の意見を聞いて、自分と同じ意見が多く、より自分の考えが強くなったと思う。(図10)
- やっぱりぼくは、アメリカの子の意見はよいと思います。やったなら、やったと言えればいいし説明して明日もつくと先生に言えば分かってくれると思うからです。

などの児童の記述が見られた。

「伝える活動」を通して、自分の考えに自信をもったり、自分とは違う視点からの考えに児童が気付いたりすることで「見通し2」につながる考えを導

「アメリカの子どもたち」について	展開①	展開②
よいと思う	52	59
少しよいと思う	14	13
少しよくないと思う	8	3
よくないと思う	1	0

1 あなたはアメリカの子どもたちのような意見をどう思いますか。あてはまる所に○印をつけて、その下に理由を書こう。

よいと思う。 少しよいと思う。 少しよくないと思う。 よくないと思う。

自分がちゃんとしたことを話さなにより、一生懸命したんだから、事実をすなおに話した方がいいと思う。ほんとうに忘れた時には、その事実を話した方がいいと思う。

2 友だちの考えを聞いた後、あなたはアメリカの子どもたちのような意見をどう思いましたか。あてはまる所に○印をつけて、その下に理由を書こう。

よいと思う。 少しよいと思う。 少しよくないと思う。 よくないと思う。

友達の意見を聞いて自分と同じ意見が多く、より自分の考えが強くなったと思う。

図10 児童の道徳気付きシートの記述

き出せたと考える。

展開③では、「自分と異なる意見を聞いたり、周りの人と異なる意見を言ったりするとき、どのような気持ちや考えや態度が必要だと思いますか」という問いかけに対して児童からは、

- 自分と異なる意見を聞くことは、自分の考えている意見の自信になり、安心できる。周りの人と異なる意見を言う時は、逆に自分の意見がまちがっているのかなと思い、不安になってしまい声が小さくなってしまう。周りの人と違う意見を言う時はとても不安になっていると思うから周りの人も優しく聞いてあげることが大切だと思う。
- その人の意見を批判せずに、そういう考えもあるんだと思うことも大切だと思います。遠慮気味に言うのではなく、はっきり言うことが大事だと思います。でも、いばった言い方はダメだと思います。自分が言っていることが絶対に正しいわけではないから、その人の意見を考えながら聞くことが大切だと思います。

などの考えが出された。

本授業を通して、自分と異なる相手の気持ちや考えを想像し、相手の立場に立って考えることの大切さに児童が気付けたことは「見通し1」につながる考えを導き出せたと考える。

「伝える活動」では、代表発表者がまとめて他の班の児童に伝えることで、児童の考えを広く交流することができた。また、児童の活動中の様子からは、同じような考えや表現であっても友達がどう思っているのかをしっかりと聞き、考えの相違点を確認し合う姿が見られた。

道徳授業アンケートの記述欄の児童の感想から、「みんなとの意見交換が気軽にできるようになりました」、「自分の意見を言えるようにしたいとおもった」、「いつも自分の意見が言えなかったけれど、発表できた」などコミュニケーションを取ることに前向きな考えが出された。「気付く力を促進する授業展開」は、児童間の交流を深めることにつながると考える。

(2) <道徳 第2時>の結果と考察

第2時の展開③では、(ア)その時の「わたし」の気持ちを想像する発問(心情面)と、(イ)その時「わたし」は何をしたらよかったのか対処の方法を考える発問(行為面)の2通りの実践を行った。「伝える活動」は2回目であり、児童は基本的な活動の流れを理解していたので、短時間で「伝える活動」の流れを振り返ることができた。

表2 児童の考えの立場の変容

「わたし」について	展開①	展開②
よいと思う	2	1
少しよいと思う	4	9
少しよくないと思う	43	43
よくないと思う	24	20

展開①、資料に登場する「わたし」に対する児童の考えの立場の変容を表2に示す。「よい」方向に評価が変わった児童は17人、

「よくない」方向に評価が変わった児童は11人いた。何もできなかった「わたし」に否定的な考えを示していた児童が、「わたし」が悩んでいる姿に共感する友達の考えを聞くことを通して、自分も共感し自己の考えの変容を行ったと考える。その反対に、「わたし」に否定的な考えを聞くことを通して、よく考え直したところ「少しよいと思う」から「少しよくないと思う」に考えを変容させた児童もいた。児童の考えの変容の方向に違いはあったが、それぞれ自分の考えの理由を明確に記述できていた。

展開②では、友達の考えを聞いた後に図11のような「自分の意見に自信がもてた」という記述が見られた。児童は、いじめにつながるような行為や心情に対して、自分と同じ考えの人がたくさんいることに気付き、自信や安心をもつことができた。それは、「見通し2」につながる。また、一人

1 お話を読んで、あなたは「わたし」をどう思いますか。あてはまる所に○印を書きましょう。そして、その下に理由を書きましょう。

よいと思う。 ———— 少しよいと思う。 ———— 少しよくないと思う。 ———— よくないと思う。

ただ見ていることが「よくない」と思った。
やりさんをかばって、あげられたら良かったと思った。
けんかにならないように仲直りさせたかった。

2 友だちの考えを聞いた後、あなたは「わたし」をどう思いましたか。あてはまる所に○印を書きましょう。そして、その下に理由を書きましょう。

よいと思う。 ———— 少しよいと思う。 ———— 少しよくないと思う。 ———— よくないと思う。

同じ意見がたくさんあった。
みんなも同じように助けてあげれば良かったと書いていたので「自分の意見に自信が持てた。」

図11 児童の道徳気付きシートの記述

ではできないことも、同じ考えをもつ他者の存在を確認することで、いじめの未然防止にかかわる集団の形成につながると考える。

展開③、(ア) その時の「わたし」の気持ちを想像する発問では、図12の記述内容が児童から出された。児童は、「どうして助けてあげられなかったのか」という問いかけから、助けてあげられなかった登場人物の心情に気付き、共感する考えを導き出すことができた。

○「わたし」はどうして助けてあげられなかったのか	
その場の雰囲気の流れに流されてしまったから	自分一人では言えない。勇気がいる。
ゆりさんの気持ちを考えてあげられなかった	助けてはいけない雰囲気だったから
自分も責められるかも	自分が弱い立場だったから
怖かった	誰かがいてくれる。自分じゃなくてもいいと考えたから
きらわれるかも	自分がされるといやで、言う勇気がなかった
その場でどうしていいかわからなかった	大勢の前でかばう自信がない
かかわりたくない	ゆりさんが悪いのか、康子さんが悪いのかわからなかったから
かばおうと考えたが、自分に自信がなかった	みんながかばわなかったから
まわりの人たちの意見に押されて声が出ない	助けると恥ずかしいと思ったから
何か言ったら自分も責められそうだから	みんなと同じでいいや、という気持ちがあったから

図12 展開③の児童の記述例

次に、(イ) その時「わたし」は何をしたらよかったのかを考える発問では、「言い過ぎだよと止める」「見ていたけれどわざとではないと思うよと言ってあげる」など相手の気持ちを想像したり、課題解決のための具体的な手だてが出された。客観的な視点ではあるが、それは「見通し3」につながる考えであり、いじめの未然防止に向けた指導のポイントである仲裁者の視点に立った考えに気付く姿を見取ることができた。

本授業を通して、児童は友達の気持ちや考えを想像することの大切さや、どのようなことをしてあげられるのかを具体的に考えることができた。

道徳授業アンケートの記述からも、「自分が同じようなことがあったから、周りから見てこういうのなんだと分かってよかった」、「他の子やクラスの子が今日のことを参考にして欲しいと思いました。そして、私も気を付けたい」など、児童が自分の過去の出来事等と関連させ問題解決に前向きな記述が見られた。

(3) <道徳 第3時>の結果と考察

第3時では、登場人物の誰がどのようなことをしたら、問題は起きずに済んだのかという対処についての発問から実践を進めた。実践の変更点として、授業実践⑦の「伝える活動」では、複数の登場人物から、自分で選んで考えを書くため、自分が選んだ登場人物の友達の考えを聞くことができない児童がいた。そこで、授業実践⑧では、自分が選んだ登場人物について他の友達の考えを聞くことができたかを挙手を通して確認した。さらに、授業実践⑨では、机間支援中に児童の選んだ登場人物を調べてまとめておき、班の移動を行う時に友達の考えを聞くことができるように参考とした。「伝える活動」で児童が多様な考えに触れられるように工夫を行いながら実践を進めた。

展開①では、「康子さん」、「取り囲む人たち」について「少しよくないと思う、よくないと思う」考えが大半であった。「さとみさん」については、「少しよいと思う」考えが含まれていた。その理由として、「強い言葉で言うのはよくないが、注意することは必要だから」という考えが出されていた。「寸劇をする男子」については、選んだ児童のほぼ全員が「よくないと思う」と考え、その理由を次のように記述していた。

○ 同じクラスで起きていることなのに、他人事のように寸劇をして、からかって楽しんでいるからよくないと思う。やっぱりクラスで起きていることを楽しんでいるからよくないと思う。

表3 児童の考えの立場の変容

「康子さん」について	展開①	展開②
よいと思う	0	0
少しよいと思う	2	1
少しよくないと思う	25	24
よくないと思う	21	23
「寸劇をする男子」について	展開①	展開②
よいと思う	0	0
少しよいと思う	0	0
少しよくないと思う	2	2
よくないと思う	45	45
「取り囲む人たち」について	展開①	展開②
よいと思う	0	0
少しよいと思う	1	1
少しよくないと思う	13	12
よくないと思う	15	16
「さとみさん」について	展開①	展開②
よいと思う	1	0
少しよいと思う	5	4
少しよくないと思う	5	7
よくないと思う	1	1

「伝える活動」の後の展開②においても、「寸劇をする男子」に対する児童の考えに大きな変化は見られなかった。

展開③では、問題解決の手だてとして児童が様々な考えを記述した。(図13) 児童の記述内容から「見通し1」につながる考えを導き出せたと考える。

道徳授業アンケートからも、「他人の気持ちをもう少し考えてから行動しようと思うことができた」「自分がもしも同じ状況の時にどうしたらよいか分かった」「一人一人が考えればこんな事にならないことが分かった」など、「見通し1」につながる考えが多数記述された。さらに、「いじめだったら止めなければいけない、勇気をもって『やめなよ』と声をかけることが大事だと分かった」「あの場面ですらどうしたらいいのか深く考えられた」など、第2時と同様に仲裁者の視点を意識したいじめの未然防止につながる考えが出された。

その他に、「道徳気付きシート」は、前の2時間と形式が若干変わっていたことで、「今までとは違うやり方で楽しかった。もっと書く時間が欲しい」という積極的な考えや、「伝える活動」では、「前回よりもくわしく考えることができて楽しかった。今日、初めて代表発表者になってきちんとみんなに伝えることができた」という感想が出された。課題に対する考えを思うように書けない児童もいたが、代表発表者になり、班の友達の考えを話す場面では、毎時間積極的に取り組む姿が見られた。その児童にとっては、代表発表者として活躍することが自己存在感をもてる場面になった。

(4) 道徳授業アンケートの結果と考察

「気付きを促す指導」についてのどの項目に対しても90%以上の児童が肯定的な回答を行った。(図14)

項目1では、「自分の考えをはっきり示す」という自己決定について尋ねているが、授業実践の考察にも記述してあるように、児童が自分の考えの立場を積極的に意思表示をして授業に参加できたことが有用感に結びついたと考える。

項目2の「自分の考えを伝える」

では、「伝える活動」を行うときに、自分の考えの立場を明確に示すことができた自己評価欄の活用が児童の有用感に結びついたと考える。

道徳の授業における「気付きを促す指導」で特に顕著な成果が現れたのは、項目4「友達のいろいろな考えを聞く」である。78%の児童が「そう思う」と回答した。児童は自分の考えだけではなく、多様な考えに触れたい気持ちや知りたい欲求をもっていと推測する。「伝える活動」では、受容的な態度で聞くルールを設定したことで、児童に共感的な人間関係づくりを意識させたり、話し合いや討論とは違った交流活動に対する児童の興味・関心を高めたりしたことが有用感に結びついたと考える。

2 生活気付きシートの結果と考察

「生活気付きシート」は4週間に渡って実践を行った。1週間に一回担任が回収し、その後、研修員が記述内容についてコメントを書き、児童に返却した。書き方は当初のねらいと多少ずれが生

3 もう一度、給食を片づける場面からこのお話が始まるとしたら、このお話に登場する人たちは、どうすればよいとあなたは思いますか。名前と何をすればよかったのかを考えて書きましょう。

とみさん ヤリさんに「あやまりなよ!」と喋っているけど、ヤリさんの目をちゃんと見て、「わざとじゃないよ、あやまりなよ」と、やさしい口調で喋ってあげれば、良かったんじゃないかなと思った。

藤子さん ヤリさんに、「シチューが付いたよ、どうしようか」と少し言葉を同じくして、自然と「めんね」とあやまれるような声でいえば、ヤリさんもあやまれるんじゃないかなと思った。

図13 展開③の児童の記述例

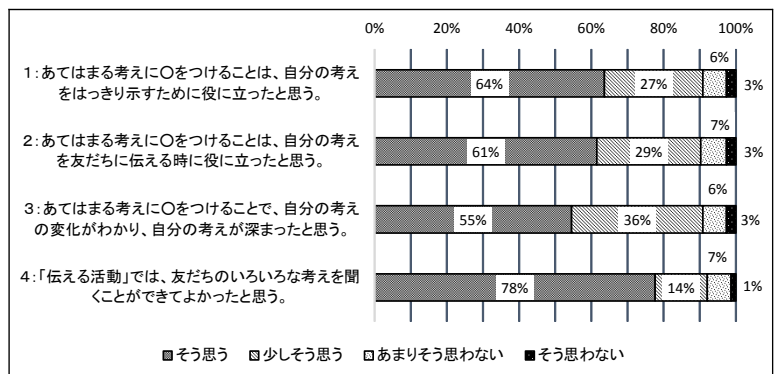


図14 気付きを促す指導について

じた。そこで実践の途中ではあったが学級担任と相談し書き方の微調整を行った。

4週間後に行った。振り返りでは、今までの自分の記録内容を見て、B～Dの自己評価をつけたことに対し、「もう一度、同じ場面になったら自己評価をAにするためにどうするか」という視点で自分の考えを書かせた。自分自身の言葉や行為をもう一度、振り返ることを通して、「自己への気付き」や「他者への気付き」の力を高めさせ、共感的な人間関係を形成することの大切さに意識を向けさせた。児童によっては、自己評価がすべてAと書かれている記録もあったが、そのような児童には、「もっといい方法はないか、違ういい言い方などがないか」という視点で振り返りをさせた。具体的な児童の記入例が図15になる。

児童の記述例①				児童の記述例②					
10/25	友達が いやな事を されていた。	大丈夫かな	心配していた けれど「注意で きなかつた」	D	10/11	友達が「頼んで ました」	痛そう 他に何かできることは なかったかな？	その子が笑っていた のを見て笑ってしまった。 もしも同じようなことが 起これたらどうする？	C
↓ 実践後 ↓				↓ 実践後 ↓					
10/25	友達が、いやな事をされていても心配していても声に出さないと意味がないから注意できるようにする。				10/11	その子が笑っていても、心配してあげて、もしもその子が何かしやうたら、早くうちがう話をしてあげるようにする。			

図15 生活気付きシート 児童の記入例

児童の記述例①は、心配したが注意できなかった児童が、注意することの価値に気付き、もう一度同じ場面になったら「注意できるようにする」という意思が書かれた。児童の記述例②は、その子が笑っていたので自分も笑ってしまったことを振り返り、相手の気持ちを想像しながらその場にあう対処を考える姿を見取ることができた。実践後の児童の感想では、

- 自分の行動、言葉を振り返ると、勇気が出て、前向きに頑張ろうと思えた。
- 一日一日のことを振り返れて次はどうすればいいか考えることができた。素直な気持ちが書けた。
- 人に助けられているという感覚があり、みんなで助け合っていることが改めて分かった。
- A評価の時は言って良かったと思うけど、B、C、Dの時はあとで言わなきゃ良かったや心残りがあるなど思う。
- 悪いことをしてしまった時は、書いていて「明日謝ろうかな」という気持ちになれて、とても役に立った。

など、「生活気付きシート」に対する前向きな考えが多数見られた。特に、

- 一日を振り返ることができた。また、同じ事があった時に、自分が言いたいことが言えるようになった。友達に優しく言えるようになった。今度は、家に帰って自分で書いてみたいと思った。

と言う児童の感想から、実際の生活の中で自分の行動に変化を起こした事例も見られた。上記の児童の考えは「見通し3」につながっており、友達とのかかわりに対する考えを深めることができたと考えられる。

IX 実践の成果と課題

1 成果

授業展開を工夫することで、児童は他者の多様な考えを共有することができた。そして、自分の考えに自信をもったり、考えの視点を変えて自分の考えを深めたりすることにつながった。

「道徳気付きシート」では、自分の考えの立場の違いやその理由を明確にすることで、児童相互の多様な考えの共有を効果的に行うことにつながった。児童のアンケート結果や感想の内容からも、自己決定を促すことは、児童が積極的に意思表示をして授業に参加できるための有効な活動であるととらえた。特に、「伝える活動」は、授業中の全員参加の活動の様子を通して、児童が積極的に取り組

む姿が見られたことから自己存在感をもたせることができた。

「生活気付きシート」の活用は、自己を振り返り、自分自身を見つめ直すことで、周りへの影響を考えて行動できる力を育てることや、日常生活における児童生徒の実態把握に役立った。児童が過去の出来事等と関連させながら問題解決に前向きな記述をしたことやいじめの未然防止につながる考えを記述したことから、いじめの未然防止に積極的にかかわろうとする姿が見られた。友達とのかかわりを自己評価したことで自分の行為や心情を振り返り、よりよい関係をつくるための見通しや意欲をもたせることにもつながった。

「伝える活動」は話合いや学び合いのような双方向の情報交換、意見の交流とは違い、一方向の情報の伝達である。しかし、交流活動の一つのバリエーションとして他の教育活動で活用すると児童の関心の高まりや、交流活動の活性化にもつながると考える。

2 課題

気付きを促進する授業展開に適した道徳資料の選定及び作成である。本研究はいじめの未然防止に焦点化しているので、道徳のすべての資料にあてはめて活用できるものではない。そのため、資料の選定に時間がかかった。他の副読本や自作資料を活用するためには選定及び作成の基準が必要となる。

X 今後の展望と具体的な改善策

1 いじめの未然防止に重要なポイント

いじめの未然防止では、①いじめを見逃さないために、児童同士のコミュニケーション力を高めること、②いじめをしないために、共感する力を高めること、③いじめを許さない意欲や態度を身に付けること、が重要である。①～③をねらった道徳指導を行うには、自他の考えに気付く授業を計画的、継続的に実施することが効果的と考える。クラスの実態に合わせ、未然防止に向けて高めさせたいポイントを絞った指導計画も考えられる。

2 課題を踏まえての改善策

資料の選定では、①いじめの四層構造に近い場面が含まれる、②登場人物の葛藤・悩みが読み取れることが必要である。また、上記の二点を考慮した自作資料の作成も課題解決につながる。

<参考文献>

- ・文部科学省 『小学校学習指導要領解説 道徳』 東洋館出版社(2008)
- ・文部科学省 『生徒指導提要』 教育図書(2010)
- ・生徒指導研究センター 『いじめ追跡調査2010-2012』 国立教育政策研究所(2013)
- ・国立教育政策研究所 『SYMPOSIUM 子どもを問題行動に向かわせないためにーいじめに関する追跡調査と国際比較を踏まえてー平成17年度教育改革国際シンポジウム報告書』(2006)
- ・財団法人人権教育啓発推進センター 『コンパシート〔羅針盤〕子どもを対象とする人権教育総合マニュアル』(2009)
- ・相馬 誠一・佐藤 節子・懸川 武史 編著 『入門いじめ対策』 学事出版(2012)
- ・河村 茂雄 著 『学級集団づくりゼロの段階』 図書文化(2011)
- ・栗原 慎二 著 『いじめ防止6時間プログラム』 ほんの森出版(2013)
- ・砂川 真澄 編著 『いじめの連鎖を断つ』 富山房インターナショナル(2008)
- ・森田 洋司 著 『いじめ 教室の病い』 金子書房(1994)
- ・森田 洋司 著 『いじめとは何かー教室の問題、社会の問題』 中公新書(2010)
- ・道徳資料出典 『道徳6年 きみがいちばんひかるとき』 光村図書出版株式会社

<担当指導主事>

國峯 智 中村 清志

道徳学習指導案＜第1時＞

1 主題名 広い心 内容項目2－(4) 寛容・謙虚

2 資料名 君ならどうする－子どもたちとの対話－

3 本時の展開

(1) **ねらい** 自分と異なる相手の気持ちや考えを想像し、相手の立場に立って考えようとする意欲や態度を養う

(2) **準備** 資料 道徳気付きシート 掲示用発問シート 道徳授業アンケート
伝える活動の流れ(掲示用) 移動説明シート(掲示用)

(3) 展開

学習活動	時間	○主な発問 (・予想される児童の反応)	支援及び指導上の留意点
1 本時の学習課題に対して、自己を振り返る。	3分	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 児童の事前アンケートの結果を提示する。 ○自分の言いたいことをきちんと言えなかったことはありますか。 </div>	○今までの児童自身を振り返らせることで、本時のねらいに気付かせる。
2 資料を読み内容を確かむ。	7分	○河合先生の質問に対して、あなたが同じ質問を受けたらどう答えますか。 ・ノートをもってこられなかったので忘れましたと言う。 ・忘れましたと素直に言う。 ○資料に出てくる日本の子どもたちはどのように答えましたか。 ・西川君：自分がいけないから。 ・大山君：証明できないから。 ・原さん：弁解みたいで嫌な気分になるから。	○資料の冒頭の一部を、教師が範読する。 ○児童を指名し、自分の考えを発表させる
3 課題をつかむ。 ①自己への気付きを高める。	7分	○あなたは資料に出てくるアメリカの子どもたちのような意見をどう思いますか。 ・考えていることをはっきり言えてすごい。 ・周りの人をあまり気にしてない。 ・周りの人に忘れた理由がきちんと伝えることはいいこと。 ・言い訳をしてるみたいでやだな。 ・疑われそう。	○「道徳気付きシート」の1に、自分の素直な気持ちや考えを記入させる。 ○理由を思いつかない児童に対しては○をつけるだけでもいいことを伝える。
②他者からの気付きを通して、自己への気付きを深める。 ○自分の班の友達に、		<div style="border: 2px dashed black; padding: 5px;"> ○伝える活動を行う。 </div>	○班の中で自分の考えを伝え合わせる。 ○傾聴や受容的・共感的な態度を心がけるように声がけ

<p>自分の考えを発表する。</p> <p>○他の班の友達の考えを聞く。</p>	<p>15分</p>	<p>○友達の考えを聞いて、あなたはアメリカの子どもたちの考えをどう思いましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分と同じ考えだね。 ・自分とは少し違う考えだね。 ・自分と違う考えだ。 <p>○友達の考えを聞いて、自分の考えをもう一度振り返ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めの考えと少し変わった。 ・初めの考えと変わらなかった。 	<p>を行うことを通して、発表者が安心して発表できる環境づくりに努める。</p> <p>○他の班の発表を聞くことを通して多様な考えに気付かせる。</p> <p>○「道徳気付きシート」の2に、友達の多様な考えを聞いたことで、自分の考えの変容や深まりを意識させながら記入させる。</p> <p>○理由を思いつかない児童に対しては友達の考えを参考にするように声がけを行う</p> <p>○友達の考えに触れたことを通して、児童の考えの変容を挙手を通して確認する。</p>
<p>③他者への気付きを高める。</p> <p>○自分の班の友達に、自分の考えを発表する。</p>	<p>10分</p>	<p>◎自分と異なる意見を聞いたり、周りの人と異なる意見を言うとき、どのような考えや態度が必要だと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなに聞こえる声で話す。 ・友達の発表を最後までしっかり聞いてあげる。 ・冷やかしたりばかにしたりしない ・発表が終わったら拍手をしてあげる。 ・むやみに引っ込み思案にならない方がいい。 ・よく考えて、言うときには勇気をもっている。 <p>○伝える活動を行う。(班移動なし)</p>	<p>○「道徳気付きシート」の3に、相手を大切にすることを意識させながら記入させる。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>☆自分と異なる相手の気持ちや考えを想像し、相手の立場に立って考えることができたか。 (道徳的実践意欲・態度)</p> </div> <p>○自分の班の考えを聞くことを通して多様な考えに気付かせる。</p>
<p>4 本時のまとめ</p> <p>○教師の説話を聞く。</p>	<p>3分</p>	<p>○十人十色</p> <p>○三者三様</p> <p>○百人百様など</p>	<p>○ことわざや資料を基に、違いを認め、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にすることを覚える。</p>

資料名【きみならどうするー子どもたちとの対話ー】

6年 組 番 名前

- 1 あなたはアメリカの子どもたちのような意見をどう思いますか。あてはまるところに○印をつけて、その下に理由を書こう。

よいと思う。

少しよいと思う。

少しよくないと思う。

よくないと思う。

- 2 友達の考えを聞いた後、あなたはアメリカの子どもたちのような意見をどう思いましたか。あてはまるところに○印をつけて、その下に理由を書こう。

よいと思う。

少しよいと思う。

少しよくないと思う。

よくないと思う。

3 自分と異なる意見を聞いたり、周りの人と異なる意見を言ったりするとき、どのような考えや態度が必要だと思いますか。



A large rounded rectangular box with a black border and rounded corners. Inside the box, there are 15 horizontal lines spaced evenly, providing a writing area for the response to question 3.

道徳学習指導案＜第2時①＞

1 主題名 互いに助け合って 内容項目2－(3) 信頼、友情

2 資料名 鏡の中の顔

3 本時の展開 (1/2) ～「わたし」の心情面～

- (1) **ねらい** 友達の気持ちや考えを想像し、仲良く助け合おうとする道徳的判断力を養う
- (2) **準備** 読み物資料 道徳気付きシート 発問シート (掲示用)
道徳授業アンケート 伝える活動の流れ (掲示用) 移動説明シート (掲示用)
- (3) **展開**

学習活動	時間	○主な発問 (・予想される児童の反応)	支援及び指導上の留意点
1 本時の学習課題に対して、自己を振り返る。	5分	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 児童の事前アンケートの結果を提示する。 ○困っている人がいたら助けてたい。 </div>	○今までの児童自身を振り返らせることで、本時のねらいに気付かせる。
2 資料を読み内容を確かむ。	10分	○ゆりさんはどうして教室を飛び出したのでしょうか。 ・自分は一人ぼっちだと思ったから。 ・誰も助けてくれないから。 ○教室を飛び出したゆりさんを見たとき、「わたし」は、どんな気持ちだったのでしょうか。 ・ゆりさんかわいそうだな。 ・かばってあげたいな。 ・謝ればいいのにな。	○資料を教師が範読する。 ○児童を指名し、自分の考えを発表させる。 ○児童自身が、その場に居合わせたらどんな気持ちになるのかを想像させながら「わたし」の気持ちを考えるように声かけを行う。
3 課題をつかむ。 ①自己への気付きを高める。	5分	○あなたは「わたし」をどう思いますか。 ・かばってあげなかったのでよくない。 ・助けてあげなかったので少しよくない。 ・他の子と一緒に責めなかったので少しよい。 ・ゆりさんのことを考えてあげているのですこしよい。	○「道徳気付きシート」の1に、自分の素直な気持ちや考えを記入させる。 ○理由を思いつかない児童に対しては○をつけるだけでもいいことを伝える。
②他者からの気付きを通して、自己への気付きを深める。 ○自分の班の友達に、自分の考えを発表する。		<div style="border: 2px dashed black; padding: 5px;"> ○伝える活動を行う。 </div>	○班の中で自分の考えを伝え合わせる。 ○傾聴や受容的・共感的な態度を心がけるように声かけを行うことを通して、発表者が安心して発表できる環境づくりに努める。 ○他の班の発表を聞くことを

<p>○他の班の友達のことを聞く。</p>	<p>15分</p>	<p>○友達のことを聞いて、あなたは「わたし」をどう思いましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すぐにかばってあげなかったのはやっぱりよくない。 ・助けてあげなかったのはよくないけれど、あとでゆりさんのことを考えてあげているので少しよくない。 ・他の子と一緒に責めなかったのが少しよい。 ・自分で何ができたのかを反省しているからよいにした。 <p>○友達のことを聞いて、自分の考えをもう一度振り返ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めの考えと少し変わった。 ・初めの考えと変わらなかった。 	<p>通して多様な考えに気付かせる。</p> <p>○他の班のことを聞いた人たちは、自分の席に戻った後に、代表発表者に聞いてきた考えを伝える。</p> <p>○「道徳気付きシート」の2に、友達の多様な考えを聞いたことで、自分の考えの変容や深まりを意識させながら記入させる。</p> <p>○理由を思いつかない児童に対しては友達の考えを参考にするように声かけを行う</p> <p>○友達のことを触れたことを通して、児童の考えの変容を挙手で確認する。</p>
<p>◎他者への気付きを高める。</p> <p>○自分の班の友達に、自分の考えを発表する。</p>	<p>7分</p>	<p>◎「わたし」は、その時、どうして助けてあげられなかったのでしょうか。「わたし」の気持ちを想像しながら、自分の考えを書いてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・怖かったから。 ・何か言ったら自分も責められそうだから。 ・誰かが言ってくると思ったから。 ・かかわりたくないと思ったから。 <div style="border: 2px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>○伝える活動を行う。(班移動なし)</p> </div>	<p>○「道徳気付きシート」の3に、相手を大切にしたい気持ちを意識させながら記入させる。</p> <p>○どのようにかばってあげればよかったのかを具体的に書くよう声かけを行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>☆友達の気持ちや考えを想像し、仲良く助け合うことの大切さに気付けたか(道徳的判断力)</p> </div> <p>○自分の班の友達の考えを聞くことを通して多様な考えに気付かせる。</p>
<p>4 本時のまとめ</p> <p>○教師の説話を聞く。</p>	<p>3分</p>		<p>○初めに提示したアンケートと結びつけて、友達同士仲よく助け合う気持ちや態度を高めることにつながるような余韻を残す。</p>

資料名【鏡の中の顔 ～「わたし」の心情面～】

6年 組 番 名前

- 1 お話を読んで、あなたは「わたし」をどう思いますか。あてはまるところに○印を書きましょう。そして、その下に理由を書きましょう。

よいと思う。

少しよいと思う。

少しよくないと思う。

よくないと思う。

- 2 友達の考えを聞いた後、あなたは「わたし」をどう思いましたか。あてはまるところに○印を書きましょう。そして、その下に理由を書きましょう。

よいと思う。

少しよいと思う。

少しよくないと思う。

よくないと思う。

- 3 「わたし」は、その時、どうして助けてあげられなかったのでしょうか。
「わたし」の気持ちを想像しながら、自分の考えを書いてください。



道徳学習指導案＜第2時②＞

1 主題名 互いに助け合っ 内容項目2－(3) 信頼、友情

2 資料名 鏡の中の顔

3 本時の展開 (1/2) ～「わたし」の行為面～

(1) ねらい 友達の気持ちや考えを想像し、仲良く助け合おうとする道徳的判断力を養う

(2) 準備 読み物資料 道徳気付きシート 発問シート (掲示用)

道徳授業アンケート 伝える活動の流れ (掲示用) 移動説明シート (掲示用)

(3) 展開

学習活動	時間	○主な発問 (・予想される児童の反応)	支援及び指導上の留意点
1 本時の学習課題に対して、自己を振り返る。	5分	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 児童の事前アンケートの結果を提示する。 ○困っている人がいたら助けてたい。 </div>	○今までの児童自身を振り返らせることで、本時のねらいに気付かせる。
2 資料を読み内容を確かむ。	10分	○ゆりさんはどうして教室を飛び出したのでしょうか。 ・自分は一人ぼっちだと思ったから。 ・誰も助けてくれないから。 ○教室を飛び出したゆりさんを見たとき、「わたし」は、どんな気持ちだったのでしょうか。 ・ゆりさんかわいそうだな。 ・かばってあげたいな。 ・謝ればいいのにな。	○資料を教師が範読する。 ○児童を指名し、自分の考えを発表させる。 ○児童自身が、その場に居合わせたらどんな気持ちになるのかを想像させながら「わたし」の気持ちを考えるように声かけを行う。
3 課題をつかむ。 ①自己への気付きを高める。	5分	○あなたは「わたし」をどう思いますか。 ・かばってあげなかったのでよくない。 ・助けてあげなかったので少しよくない。 ・他の子と一緒に責めなかったので少しよい。 ・ゆりさんのことを考えてあげているので少しよい。	○「道徳気付きシート」の1に、自分の素直な気持ちや考えを記入させる。 ○理由を思いつかない児童に対しては○をつけるだけでもいいことを伝える。
②他者からの気付きを通して、自己への気付きを深める。 ○自分の班の友達に、自分の考えを発表する。		<div style="border: 2px dashed black; padding: 5px;"> ○伝える活動を行う。 </div>	○班の中で自分の考えを伝え合わせる。 ○傾聴や受容的・共感的な態度を心がけるように声かけを行うことを通して、発表者が安心して発表できる環境づくりに努める。 ○他の班の発表を聞くことを

<p>○他の班の友達のことを聞く。</p>	<p>15分</p>	<p>○友達のことを聞いて、あなたは「わたし」をどう思いましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すぐにかばってあげなかったのはやっぱりよくない。 ・助けてあげなかったのはよくないけれど、あとでゆりさんのことを考えてあげているので少しよくない。 ・他の子と一緒に責めなかったのが少しよい。 ・自分で何ができたのかを反省しているからよいにした。 <p>○友達のことを聞いて、自分の考えをもう一度振り返ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めの考えと少し変わった。 ・初めの考えと変わらなかった。 	<p>通して多様な考えに気付かせる。</p> <p>○他の班のことを聞いた人たちは、自分の席に戻った後に、代表発表者に聞いてきた考えを伝える。</p> <p>○「道徳気付きシート」の2に、友達の多様な考えを聞いたことで、自分の考えの変容や深まりを意識させながら記入させる。</p> <p>○理由を思いつかない児童に対しては友達の考えを参考にするように声かけを行う</p> <p>○友達の考えに触れたことを通して、児童の考えの変容を挙手で確認する</p>
<p>③他者への気付きを高める。</p> <p>○自分の班の友達に、自分の考えを発表する。</p>	<p>7分</p>	<p>◎「わたし」は、その時、どのようなことをしてあげられたのでしょうか。「わたし」の気持ちを想像しながら、自分の考えを書いてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言い過ぎだよと止める。 ・わざとじゃないよと言ってあげる。 <div style="border: 2px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>○伝える活動を行う。(班移動なし)</p> </div>	<p>○「道徳気付きシート」の3に、相手を大切にしたい気持ちを意識させながら記入させる。</p> <p>○どのようにかばってあげればよかったのかを具体的に書くよう声かけを行う。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>☆友達の気持ちや考えを想像し、仲良く助け合うことの大切さに気付けたか(道徳的判断力)</p> </div> <p>○自分の班の友達の考えを聞くことを通して多様な考えに気付かせる。</p>
<p>4 本時のまとめ</p> <p>○教師の説話を聞く。</p>	<p>3分</p>		<p>○初めに提示したアンケートと結びつけて、友達同士仲よく助け合う気持ちや態度を高めることにつながるような余韻を残す。</p>

資料名【鏡の中の顔 ～「わたし」の行為面～】

6年 組 番 名前

- 1 お話を読んで、あなたは「わたし」をどう思いますか。あてはまるところに○印を書きましょう。そして、その下に理由を書きましょう。

よいと思う。

少しよいと思う。

少しよくないと思う。

よくないと思う。

- 2 友達の考えを聞いた後、あなたは「わたし」をどう思いましたか。あてはまるところに○印を書きましょう。そして、その下に理由を書きましょう。


よいと思う。

少しよいと思う。

少しよくないと思う。

よくないと思う。

- 3 「わたし」は、その時、どのようなことをしてあげられたでしょうか。
「わたし」の気持ちを想像しながら、自分の考えを書いてください。



道徳学習指導案＜第3時＞

1 主題名 公正公平な態度 内容項目 4－(2) 公正公平

2 資料名 鏡の中の顔

3 本時の展開 (2/2) ～クラスの人たちの行為について～

- (1) **ねらい** だれに対しても公正公平に接していこうとする道徳的実践意欲や態度を養う
- (2) **準備** 読み物資料 道徳気付きシート 発問シート (掲示用)
 伝える活動の流れ (掲示用) 移動説明シート (掲示用)
 いじめ23万人アンケート結果

(3) **展開**

学習活動	時間	○主な発問 (・予想される児童の反応)	支援及び指導上の留意点
1 本時の学習課題に対して、自己を振り返る。	5分	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 前時の、児童の考えの変容について、結果を提示する。 「わたし」についてどう思ったか。 </div>	○前時の学習内容を振り返らせることで、本時のねらいに気付かせる。
2 資料を読み内容を確かむ。	7分	○資料を読みながら、登場する人や集団に○印をつけてください。 ○ゆりさん ○康子さん ○さとみさん ○ゆりさんを囲む人たち (わたし) ○寸劇をする男子	○前時の内容を想起させるために、児童に黙読を促す。 ○児童を指名し、給食を片付ける場面に登場する人や集団の名前を発表させる。
3 課題をつかむ。 ①自己への気付きを高める。	5分	○給食の場面に登場する人をあなたは どう思いましたか。名前を書き、あてはまる考えに○印をつけて、その理由も書きましょう。 ・イライラした康子さんはよくない。 ・きつい口調で話すさとみさんはよくない。 ・ゆりさんを囲んで口々に言う人たちはよくない。 ・寸劇をする男子はよくない。	○「道徳気付きシート」の1に、自分の素直な気持ちや考えを記入させる。 ○理由を思いつかない児童に対しては名前と○印をつけるだけでもいいことを伝える。 ○「康子さん」、「さとみさん」、「ゆりさんを囲む人たち」、「寸劇をする男子」に視点を絞り考えさせる。 ○「わたし」、「ゆりさん」、「先生」については書かないように声がけを行う。
②他者からの気付きを通して、自己への気付きを深める。 ○自分の班の友達に、自分の考えを発表す		<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> ○伝える活動を行う。 </div>	○班の中で自分の考えを伝え合わせる。 ○傾聴や受容的・共感的な態度を心がけるように声がけを行うことを通して、発表

<p>る。</p> <p>○他の班の友達の考えを聞く。</p>	<p>15分</p>	<p>○友達の考えを聞いた後、あなたは、「道徳気付きシート」の1に名前を書いた人をどう思いましたか。あてはまる考えに赤で○印をつけてからその理由を書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イライラする理由はわかったけれど康子さんは絶対よくない。 ・話し方を考えていないさとみさんはよくない。 ・ゆりさんを囲んで口々に言う人たちはよくない。 ・寸劇をする男子はよくない。 <p>○友達の考えを聞いて、自分の考えをもう一度振り返ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めの考えと少し変わった。 ・初めの考えと変わらなかった。 	<p>者が安心して発表できる環境づくりに努める。</p> <p>○他の班の発表を聞くことを通して多様な考えに気付かせる。</p> <p>○他の班の考えを聞いた人たちは、自分の席に戻った後に、代表発表者に聞いてきた考えを伝える。</p> <p>○同じ名前の人についての考えを聞くことができなかった児童がいないか確認する</p> <p>○理由を思いつかない児童に対しては友達の考えを参考にするように声がけを行う</p> <p>○「道徳気付きシート」の1に赤色で記入させる。</p> <p>○友達の多様な考えを聞いたことで、自分の考えの変容や深まりを意識させながら記入させる。</p> <p>○考えが変わった時は変わった理由を、変わらない時は変わらない理由をくわしく書くように声がけを行う。</p> <p>○友達の考えに触れたことを通して、児童の考えの変容を挙手で確認する。</p>
<p>③他者への気付きを高める。</p>	<p>8分</p>	<p>◎もう一度、給食を片づける場面からこのお話が始まるとしたら、このお話に登場する人たちは、どうすればよいとあなたは思いますか。名前と何をすればよかったのかを書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・康子：はっきりいえる自分とは違うゆりさんのことを理解してあげればよかった。 ・ゆりさんを囲む人たち：大勢でゆりさんを囲まなければよかった。 ・さとみさん：何かを言おうとするゆりさんの様子に気付いてあげられればよかった。 ・寸劇をする男子：ふざけてまねるの 	<p>○「道徳気付きシート」の3に、登場人物にアドバイスをする気持ちで記入させる</p> <p>○一人一人がどうすることでゆりさんが教室を飛びださなくてすんだのかを考えるように声がけを行う。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>☆だれに対しても公正公平に接していくことの大切さに気付くことができたか。 (道徳的実践意欲や態度)</p> </div>

<p>○自分の班の友達に、 自分の考えを発表する。</p>		<p>は絶対によくない。</p> <div style="border: 2px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>○伝える活動を行う。(班移動なし)</p> </div>	<p>○自分の班の友達の考えを聞くことを通して多様な考えに気付かせる。</p>
<p>4 本時のまとめ ○教師の説話を聞く。</p>	<p>5分</p>	<p>○「わたし」はどうして助けてあげることができなかったのか(前時の「道徳気付きシート」の記述)を読み上げる。</p> <p>○「いじめられている人」が助けて欲しい人として「友達」と答える人が多い結果を伝える。</p> <p>○「ぐんまのいじめ23万人アンケート」結果を参考にして、これまでの道徳の授業を振り返る。</p>	<p>○何ができるのかを考えることでいじめに対する意識を高める。</p> <p>○いじめを気付いてあげる気持ちや態度、いじめを見つけたら誰かに伝える勇気をもつことの大切さに気付かせる。</p>

資料名【鏡の中の顔 ～クラスの人たちの行為～】

6年 組 番 名前

- 1 給食の場面に登場する人をあなたはどう思いましたか。名前を書き、あてはまる考えに○をつけて、その理由を書きましょう。

名前

よいと思う。

少しよいと思う。

少しよくないと思う。

よくないと思う。

名前

よいと思う。

少しよいと思う。

少しよくないと思う。

よくないと思う。

- 2 友達の考えを聞いた後、あなたは「1」に名前を書いた人をどう思いましたか。あてはまる考えに赤で○をつけてから、その理由を書きましょう。
※考えが変わった時は変わった理由を、変わらない時は変わらない理由をくわしく書きましょう。

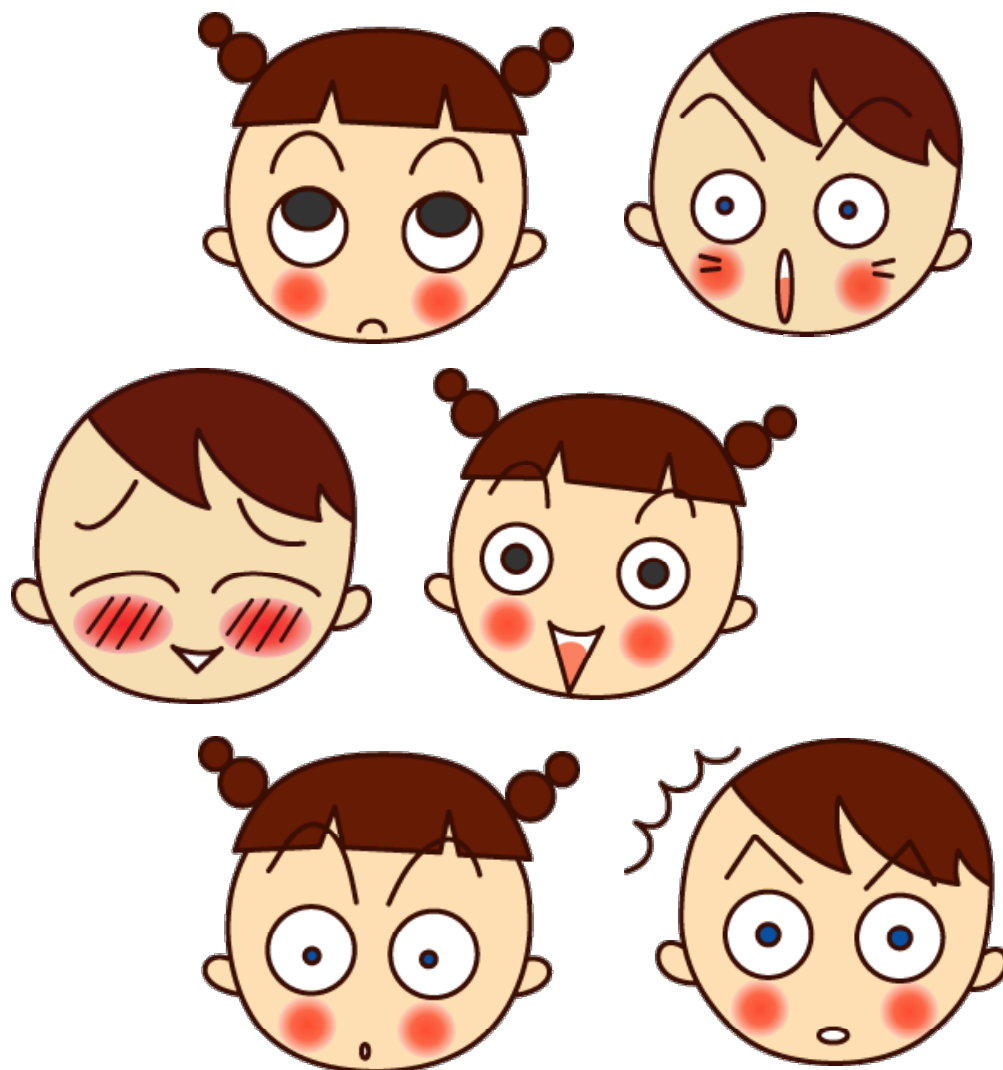
3 もう一度、給食を片づける場面からこのお話が始まるとしたら、このお話に登場する人たちは、どうすればよいとあなたは思いますか。名前と何をすればよかったのかを考えて書きましょう。

Blank writing area with three horizontal lines.

Blank writing area with three horizontal lines.

Blank writing area with three horizontal lines.

生活気付きシート



6年 組 番 名前

〔記入例〕

月 日	で き ご と	そのときの気持ちは？	その時、相手に対して どんなことを言ったのかな？ どんなことをしたのかな？	振り 返り
10/1	例① ～をがんばったね と言われた。	うれしかった。	笑顔でありがとう と言った。	A
10/2	例② (悪口) を言われた。	イライラした。	悪口を言い返した。	D

(振り返りの評価：よかった **A**、まあまあよかった **B**、少しよくなかった **C**、よくなかった **D**)

生活気付きシートを書く時のお知らせ

- ①上の例を見て、書いてください。
- ②日付とできごとは正確に書いてください。
- ③振り返りは、「相手に対して自分のとった行動を、自分がどう思ったか。」という見方で書いてください。
- ④できるだけ毎日書いてください。(たくさん書きたい時でも2つくらい)
- ⑤1週間に1回集めます。集める時には連絡がありますので、必ず担任の先生に提出しましょう。
- ⑥用紙が足りなくなったら、担任の先生に話してもらいましょう。
- ⑦わからないことやこまったことがあったら相談しましょう。

月 日	で き ご と	そのときの気持ちは？	その時、相手に対して どんなことを言ったのかな？ どんなことをしたのかな？	振り 返り

(振り返りの評価：よかった **A**、まあまあよかった **B**、少しよくなかった **C**、よくなかった **D**)

振り返りとまとめ

○自分の「生活気付きシート」を見て、もう一度、同じ場面になったら、あなたはどうしますか？「振り返り」が「A」になるためにはどうすればいいのか、自分の考えを書いてください。

※「振り返り」を見て、「B、C、D」がある人は、「B、C、D」から選んで考えてください。

※「振り返り」が全部「A」の人は、もっとよくなるための考えを書いてください。

月日	その時、相手に対して、どんなことを言うのかな？ どんなことをするのか？
例 10/1	「どうして悪く言うの？」と相手に理由を聞く。理由を聞いて、自分が何かいやなことを、知らないうちにしていたのなら、あやまる。

○「生活気付きシート」で自分の気持ちや行動を言葉に表したことをどう思いましたか。

--

○「生活気付きシート」を活用して「役に立ったこと」など、感想を書いてください。

--